

会議・行事の記録

教育長	課長	補佐	係長	合議	提案
合議先（企画振興課・熊石教育事務所）		決裁年月日	平成31年3月26日（火）		
		会議名称	平成30年度 第2回八雲町文化財保護審議会		
		会議日時	平成31年1月17日（月）10時00分～12時00分		
		会議場所	公民館 第1会議室	起案者	主事 大谷茂之
<p>◆出席者：○文化財保護審議会委員：井上会長・長坂副会長・高橋委員・庄内委員・三浦委員・幸村委員・小島委員。 ○教育委員会：吉田社会教育課長・柴田文化財係長・大谷文化財係 ○傍聴者：なし。</p>					
<p>1. 開 会 2. 挨拶 吉田課長、井上会長 3. 議 題</p> <p>(1) 議案第1号 平成31年度文化関係事業の計画及び予算について 事務局より提案し、質疑なしで承認。</p> <p>(2) 議案第2号 町指定文化財候補について</p> <p>ア 事務局より提案する。 候補である、丸木舟、鉾山墓地、八雲焼について説明。</p> <p>イ 丸木舟</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペンキ塗装等、後世の変更は、その資料の歴史を語るのものでそのままにして説明をきちんとするので良いかという意見に対し、指定後でも以前の状態に戻すことはできる。どの段階の資料として残すのかが重要という意見があった。 ・舟の実測図を作成し、実物を見る機会を作る。 <p>ウ 鉾山墓地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来年度は現地調査を行う。 ・墓地の範囲は町有地としたはずとの指摘があったため、確認する。 <p>エ 八雲焼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ八雲焼が指定候補なのかの質問があった。八雲焼は北海道で焼かれた陶器としては古いものであり、道内の窯業史として重要である。また窯跡が残っており、発掘調査もされており、陶器資料も残っているのは他にはなく、重要であることを説明した。 ・八雲焼は発掘資料もあり、今回提示している写真資料以上に膨大な数がある。実際にもものを見て、どういう基準で指定するか考えの整理が必要。 ・製作技術や製作者についての調査がもっと必要である。 ・今回は、上手ものと日常雑器、発掘資料等を分けて提示する。 					

(3) 報告第1号 平成30年度文化財関係事業(上半期)の実施報告及び決算について

ア 事務局より報告、質疑なし。

(4) 報告第2号 平成30年度埋蔵文化財保護業務について

ア 事務局より報告、質疑なし。

(5) 報告第3号 郷土資料の寄贈・寄託状況について

ア 事務局より報告、質疑なし。

(6) その他

ア 八雲町が所有する道指定文化財の赤彩注口土器が、東京国立博物館(7月3日～9月2日)とパリ日本文化会館(10月17日～12月8日)で展示されたことを報告。

その凱旋展示として、2月9日から開催の収蔵美術展にて展示する。

イ 要望や質疑

- ・八雲とアイヌの関係についての講演会とか勉強をすることはできないか。
- ・木彫り熊の調査でスイスのジョバンが来たとき、対応が悪かったと聞いた。
→ジョバンとしては姉妹都市など交流することを提案していたが、町としてはそこまで対応できなかったことと思われる。調査の対応自体は悪くなかったと思われる。
- ・徳川公園や熊の檻の保存をしっかりとしてほしい。
- ・熊石地域の古文書でアイヌとのかかわりの資料はあるか。
→相沼内の川はアイヌが管理するというに決めていた等、少しは残っているようだ。
- ・熊石にクジラ塚はあるか。
→ないようである。

(以上)

平成 30 年度

第 2 回八雲町文化財保護審議会

開催日時 平成 31 年 1 月 17 日(木)

午前 10 時 00 分～

開催場所 八雲町公民館第一会議室

1. 開 会

2. 挨 拶

八雲町教育委員会 教育長 田 中 了 治

八雲町文化財保護審議会 会 長 井 上 光 雄

3. 議 題

議案第 1 号 平成 31 年度文化関係事業の計画及び予算について (1 頁)

議案第 2 号 町指定文化財候補について (2～7 頁)

報告第 1 号 平成 30 年度文化財関係事業(上半期)の実施報告及び決算について (8～9 頁)

報告第 2 号 平成 30 年度埋蔵文化財保護業務について (10 頁)

報告第 3 号 郷土資料の寄贈状況について (11 頁)

そ の 他 (12 頁)

4. 閉 会

議案第1号 平成31年度文化財関係事業の計画及び予算について

1 文化財関係予算

	予 算 名	主 な 予 算 内 容	予算(千円)
1	史跡史料管理費	梅村庭園、郷土資料収蔵庫等の施設及び史跡の管理に係る経費	6,716
2	郷土資料館費	郷土資料館と木彫り熊資料館の管理及び事業等に係る経費	1,858

2 文化財関係事業

	事 業 名	開催予定日時	開催場所	目 的	実 施 予 定 内 容	予算(千円)
1	文化財パトロール	未 定	町 内	国指定文化財や埋蔵文化財包蔵地の巡視	町内に所在する指定文化財や埋蔵文化財包蔵地を、渡島教育局職員と道より委嘱を受けた文化財調査員等とともに巡視し、毀損や破壊などがなくかを調査する。	0
2	重要文化財公開展示	10月～11月	木彫り熊資料館小展示室	指定文化財の公開・展示	文化財保護強調月間に国指定重要文化財「コタン温泉遺跡出土品」の公開・展示を行う。	0

3 郷土資料館関係事業

	事 業 名	開催予定日時	開催場所	目 的	実 施 予 定 内 容	予算(千円)
1	企画展 ペザントアート展	7月～10月	木彫り熊資料館	八雲の木彫り熊の原点についての紹介	1921(大正10年)に徳川義親侯がヨーロッパに行った際、スイスでペザントアート(農村美術)に触れ、その作品を購入した経緯や、ペザントアートの作品などを紹介する。	146
2	企画展 収蔵美術展	2月～3月	木彫り熊資料館	美術品を一般公開し、芸術文化の鑑賞機会の充実を図る。	郷土資料館が所蔵する美術品の一般公開。	
3	企画展 ひな人形展	2月～3月	梅雲亭	ひな祭りの歴史と文化の紹介	郷土資料館が所蔵する明治期から昭和期にかけてのひな人形やひな道具と、やくもレディーネットが所蔵する各地のおひな様を展示する。【やくもレディースネットと共催】	
4	化石採集体験学習	6月	上八雲・鉛川地区	地層の観察や化石の採集をとおして化石について学ぶ。	上八雲のポンセイヨウベツ川岸の瀬棚層や、鉛川のペンケルベシュペ河岸の八雲層で、地層の観察や化石採集を体験する。	10
5	少年文化財教室	10月～11月	シルバープラザ	体験学習をとおして、自然について学ぶ	アイヌ文様の切り絵や木の葉メール作り体験を行う。	19
6	史料より見る歴史講座	9月(熊石地域)	ふれあい交流センター熊石館	地域の歴史を文献史料によって学ぶ	熊石地域の古文書から知り得る、熊石の歴史について学ぶ。	14
		11月(八雲地域)	公民館		八雲地域の古文書から知り得る、八雲の歴史について学ぶ。	
7	縄文文化体験講座	1月	公民館	体験学習をとおして、縄文文化を学ぶ	縄文時代の技術や文化を学び、勾玉作りを体験する。	16

4 主要事業

	事 業 名	実施時期	実施場所	目 的	事業概要と事業経費	予算(千円)
1	新八雲町史編さん事業	通 年	郷土資料館	合併後の八雲地域と熊石地域の歴史の編さん	平成17年に旧八雲町と旧熊石町が合併し新八雲町となつて、平成32年には15年が経過することから、合併からの15年間の歴史を『三訂 八雲町史』の構成内容に沿って追記する形で編さんする。 共済費:440千円、賃金2,618千円、需用費106千円、役員費30千円。	3,194

議案第 2 号 町指定文化財候補について

平成 30 年度の第 2 回審議会で、候補をしぼった方が良いという意見に基づいて、候補を丸木舟、鉾山墓地、八雲焼の 3 件とする。

1. 丸木舟

八雲町郷土資料館には、3 艘の丸木舟が収蔵されている。

NO1(収蔵番号 1137)は、鉛川の開拓者が使用したと言われている。

NO2(収蔵番号 1138)は、昭和 24 年に十島氏が制作したもので、ふ化場の鮭監視用として使用したものとされている。

NO3(収蔵番号 1139)は、椎久氏が所有していたもので、ふ化場職員が譲り受けて、ふ化場で使用したもので、その後、沖揚げ音頭保存会で受け入れたもの。昭和 52 年のユーラップ川下りに使用される際に水色のペンキが塗られた。

※ペンキの除去方法について、色々と問合せ中であり、有効な方法についてはまだわかっていない。

2. 鉾山墓地

今年度、現地調査を実施する予定であったが、現在の所未調査。

鉾山共同墓地が所在するところは、資料によると国有林野内の八雲町鉛川八雲事区の 182 ハ林小班となっている。鉛川共同墓地の面積は、2,182,0625 m²。

3. 八雲焼

八雲焼資料は、八雲町郷土資料館が所蔵する資料と八雲産業株式会社が管理している資料がある。

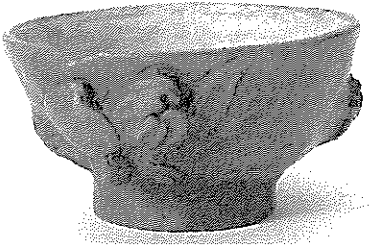


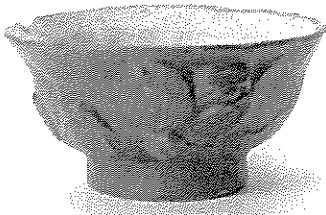
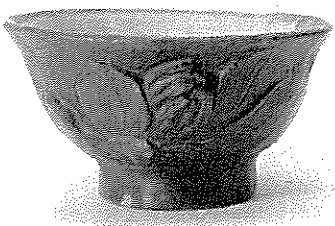

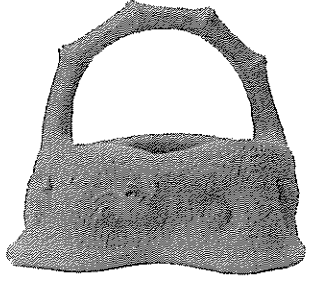




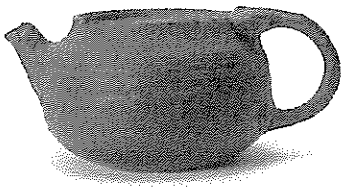
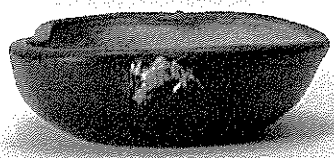
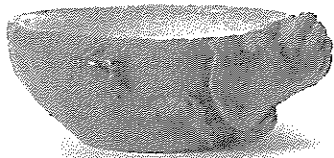

1. 八雲町郷土資料館が所蔵する資料には、伝製品と発掘調査による出土品などがあり、内訳として製品、未製品（素焼の破片を含む）、窯道具、その他がある。

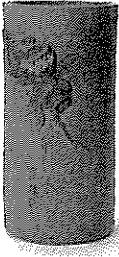

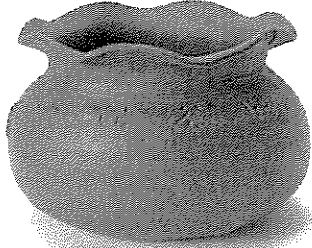



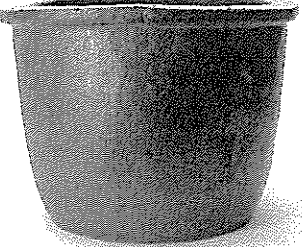
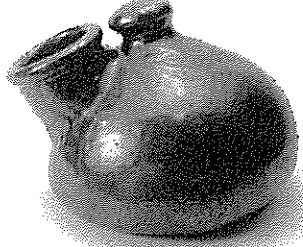

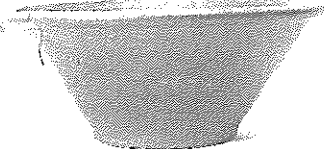
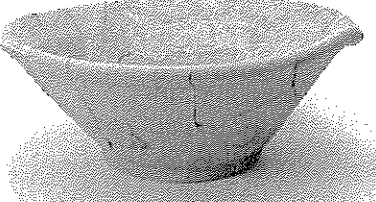
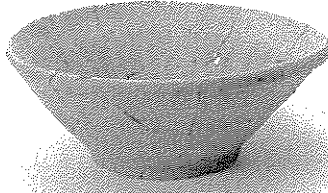
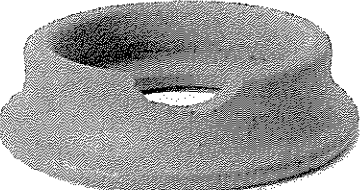
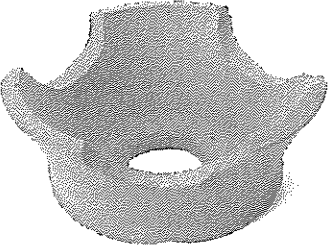
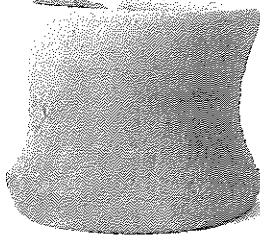
2. 八雲産業株式会社が管理する資料は、湯呑 5 点、急須 1 点、煙草火入れ 1 点。

※八雲産業株式会社が管理する資料に関しては、八雲町指定文化財に指定することに関して、事前に了解を得ている。

丸木舟一覧（八雲町関連）

NO	所蔵	規格等（cm）				由来・特徴等	制作者	備考
		長さ	幅	深さ	舷厚			
1	八雲町郷土資料館	524	70	23		鉛川の開拓者が使用したもの。	不明	収蔵番号：1137
2	八雲町郷土資料館	623	44	22		制作年は昭和24年。ふ化場の鮭監視用として使用したもの。先端部分が破損している。十島氏制作の船。	不明	収蔵番号：1138
3	八雲町郷土資料館	660	59.5	30		椎久氏が所有していた丸木舟で、ふ化場職員が譲り受けて、ふ化場で使用したもの。その後、沖揚音頭保存会が受け入れられる。昭和52年のユースラップ川下に使用されたときに水色のペンキが塗られた。	不明	収蔵番号：1139
4	市立函館博物館	648	53	25	33	「丸木舟」昭和41年に椎久きみ氏より寄贈。船尾「トダテ」部分はほぼ垂直に削っている。舳から見ると中心線は左寄り、左舷がふくらんで湾曲している。	不明	所蔵目録番号N0.757
5	北海道大学農学部付属博物館	605	49	18	2	「アイヌのまるきぶね」北海道大学に保管されているアイヌの河沼用まるきぶね（チップ）は、ヤチダモの一木をくりぬいて製作されたものである。河沼用の漁及び交通運搬などに使用されたもので、アイヌの生活習俗を知る上で重要である。また、丸木舟の典型的な製作技法を伝えており、我が国の船の変遷を考える上でも重要なものである。【国の重要有形民俗文化財】	椎久年蔵 (大正末期)	「北海道の文化財」では、ヤチダモと記載されている。 昭和32年6月3日指定

		
1. 茶わん1 (八雲産業)	2. 茶わん2 (八雲産業)	3. 茶わん3 (八雲産業)
		
4. 茶わん4 (八雲産業)	5. 茶わん5 (八雲産業)	6. 急須(八雲産業)
		
7. 煙草火れ (八雲産業)	8. 茶わん1 (資料館)	9. 茶わん2 (資料館)
		
10. 茶わん1 (個人蔵)	11. 茶わん2 (個人蔵)	12. 急須 (資料館)
		
13. 湯ざまし1 (資料館)	14. 湯ざまし2 (資料館)	15. 花びん1 (資料館)

		
16. 花びん2 (資料館)	17. 花びん3 (資料館)	18. 湯こぼし (資料館)
		
19. 片口 (資料館)	20. 火ばち (資料館)	21. こねばち (資料館)
		
22. 水がめ (資料館)	23. しびん (資料館)	24. はち (資料館)
		
25. すり鉢1 (資料館)	26. すり鉢2 (資料館)	27. すり鉢3 (資料館)
		
28. サヤ1 (資料館)	29. サヤ2 (資料館)	30. サヤ3 (資料館)

		
3 1. ハマ (資料館)	3 2. ツク 1 (資料館)	3 3. ツク 2 (資料館)
		
3 4. ツメ (資料館)	3 5. より土 (資料館)	3 6. レンガ1 (資料館)
		
3 7. レンガ2 (資料館)		

上手物（1～17）は、単に焼きしめたもので、内面や一部に施釉されている。銘が施されているものが多い。

湯ざまし：茶を入れるための湯を冷ます道具。

雑器（18～27）は、いろいろな種類のものがあり、多くは素焼で銘は施されていない。

湯こぼし：点前中に湯や水を捨てる道具。

片口：注ぎ口を作り出した容器。

道具他（28～37）は、本焼きに用いられた粘土の道具と窯の構築材。

ツメ：製品を重ね焼きする時に挟んで安定をよくする道具。

より土：サヤを重ね焼く時にサヤとサヤの間に挟んで安定をよくする道具。

ハマ：製品となる物をその上にのせ、製品が床につかないようにする道具。

サヤ：製品となる物をこの中に入れて、炎や熱が直接当たらないようにする道具。

ツク：製品を乗せる棚板と棚板の間に柱のようにしておく道具。

報告第1号 平成30年度文化財関係事業(上半期)の実施報告及び決算について

1. 文化財関係事業

事業名	開催日時	開催場所	目的	実施内容	決算(千円)
1 文化財パトロール	10月15日(月)	町内	国指定文化財や埋蔵文化財包蔵地の巡視	渡島教育局職員と道から委嘱を受けた調査員と共に、国指定重要文化財「コタン温泉遺跡出土品」及び埋蔵文化財包蔵地の台の上遺跡、山越2・3・4遺跡の巡視を行う。	0
2 企画展「コタン温泉遺跡出土品展」	10月13日(土)～11月11日(日)	木彫り熊資料館小展示室	北海道文化財保護強調月間に合わせて、文化財に関する学習機会の拡充と教育普及を図る。	重要文化財に指定されたコタン温泉遺跡出土品と共に、重要文化財以外の出土品も併せて展示し、コタン温泉遺跡の全体像を紹介する。 開催期間中の入館者数:520名	0

2. 郷土資料館関係事業

事業名	開催日時	開催場所	目的	実施内容	決算(千円)
1 企画展「熊大工加藤貞夫の木彫り熊」	4月28日(土)～9月2日(日)	木彫り熊資料館企画展スペース	八雲町の木彫り熊の歴史と加藤貞夫の生涯や作風についての理解を深める。	自分を「熊大工」と呼び、木を愛し作品を作り続けた加藤貞夫作の初期から円熟期までの作品を展示する。開催期間中の入館者数:2,386名。 関連講座「熊大工・加藤貞夫について」の講演会を6月23日(土)14時から15時に学芸員により実施する。参加者:18名。	15
2 企画展「八雲聾啞学院と辻本繁」	5月12日(土)～6月24日(日)	木彫り熊資料館小展示室	八雲聾啞学院の歴史と辻本繁の業績を紹介する。	昭和3年に、辺地の聾児教育を目指し函館訓盲院の教職を辞した辻本繁が、八雲聾啞学院を創設した歴史を、辻本繁の自筆手記や報告書などによって紹介する。開催期間中の入館者数:662名。 6月17日(日)には、北海道聾史講座実行委員会による聾史講座が実施され、記念碑の除幕式、関連施設のフィールドワーク、記念講演会などが実施される。	
3 企画展「八雲町内の遺跡展」	8月11日(土)～10月8日(月)	木彫り熊資料館小展示室	八雲町の先史時代について紹介する。	町内の発掘調査が行われた遺跡を、土器、土製品、石製品などの出土遺物や写真パネルなどによって紹介する。開催期間中の入館者数:1,080名。	
4 特別展 徳川さんとかかわり～木彫り熊とユーラップアイヌ文化～	9月15日(土)～11月25日(日)	木彫り熊資料館企画展スペース	徳川義親侯が収集した木彫り熊とアイヌ資料を展示し、徳川義親侯と八雲のかかわりについて紹介する。	北海道150年事業の一環として、八雲産業株式会社が管理する、徳川義親侯が収集した木彫り熊18点とユーラップアイヌ資料34点の寄託を受けて、徳川義親侯と八雲のかかわりについて紹介する。 開催期間中の入館者数:1,222名。 関連事業として10月20日(土)14時～15時に、学芸員による講演会「徳川さんがみた八雲」を実施する。参加者26名。	

5	化石採集体験学習	6月16日(土) 9:30~12:00	上八雲・鉛川地区	化石採集体験をと おして、化石につ いての理解を深 める。	小学生を対象に、鉛川のペンケルペシ ペ川左岸の八雲層及び上八雲のポンセ イヨウベツ川右岸の瀬棚層の露頭で、地 層の観察と化石採集を体験する。参加 者:25名(保護者9名)、	6
6	古文書教室	9月1日(土) 第1部10:00~ 12:00 第2部13:00~ 15:00	公民館 第1集会 室	古文書に対する 興味や読解力を 高めてもらうこ とにより、地域の歴 史や史料につい て関心と理解を深 めてもらう。	北海道立文書館との共催事業で、第1部 「はじめての古文書」(講師:北海道立文 書館文書専門員 石川 淳)では、古文書 解読の基礎を学ぶ。 第2部「尾張藩士の家督相続」(講師:八 雲町文化財保護審議会委員 幸村恒夫) では、都築家文書を使って、江戸期の武 家の家督相続の意味や手続きなどにつ いて学ぶ。参加者:41名。	9
7	史料より見る歴史講座	11月4日(日) 10:00~12:00	ふれあい 交流セン ターくまい し館	歴史史料の解説 を通して、八雲の 歴史への関心を 深める。	幕末と熊石番所~江川家所蔵「五人組 帳」より~をテーマに、「熊石番所御用取 扱大略書」と「安政三年 三ツ谷村五人組 帳」をもとに、江戸時代末期に熊石番所 が担った役割や、五人組帳の意味や内 容などについて学習する。(講師:八雲町 文化財保護審議会委員 幸村恒夫) 参 加者:11名。	5
8	少年文化財教室	10月28日(日) 10:00~16:00	シルバー プラザ 第 2会議室	体験学習をと おして、自然や歴史に 関心を持つ心を 育てる。	八雲町文化祭に来場した小・中学生を対 象に、木の葉メール作りとアイヌ文様の 切り絵体験を実施する。 参加者:33名のうち小学生7名。	2
9	縄文文化体験学習	1月12日(土) 13:30~15:30	公民館第 1集会室	勾玉作り体験をと おして、縄文文化 について学ぶ。	小学生を対象に、勾玉が作られた目的 やその形について学び、滑石という石を 加工して、実際に勾玉作りを体験する。 参加者:21名(保護者10名)	—

報告第2号 平成30年度埋蔵文化財保護業務について

NO	事業名	事業者	事業内容	対象遺跡	実施内容	調査期間	調査結果
1	三杉3号線道路改良工事	八雲町役場建設課	道路改良 L=51.0m	八雲3遺跡 (B-16-42)	工事立会	H30.6.29～ 8.5	遺跡隣接地で、埋蔵文化財は確認されなかった。
2	小型風力発電所建設工事	AURA-Green Energy株式会社	小型風力発電所の建設(20kw未満)	西浜遺跡 (B-16-89)	試掘調査	H30.7.9	攪乱層より遺物が出土するが、遺物包含層は確認されなかった。
3	北海道新幹線建設事業	独立行政法人 鉄道建設・運輸施設整備支援機構	新幹線建設工事	—	所在調査 (野田追トンネル、立岩トンネル発生土受入地)	H30.11.7	埋蔵文化財は確認されなかった。
4	山越駅裏通常砂防ダム事業	渡島総合振興局 函館建設管理部	砂防事業 砂防堰堤工 1基	山越8遺跡 (B-16-70)	試掘調査	H30.11.13	埋蔵文化財は確認されなかった。
5	草地畜産基盤整備事業	渡島総合振興局 産業振興部農村振興課	草地整備改良、草地造成改良	浜松6遺跡 (B-16-26) 上八雲4遺跡 (B-16-35)	所在調査	H30.11.14	遺跡隣接地で、埋蔵文化財は確認されなかった。

報告第3号 郷土資料の寄贈・寄託状況について(平成30年6月14日～平成31年1月13日)

○寄贈

No	住所	年月日	点数	産地・資料名・年代・作者等	
1	八雲町	平成30年6月27日	1	八雲	家庭用うどん製造器
2	八雲町	平成30年7月9日	一括	八雲等	古写真、ラジオ等
3	アメリカ	平成30年8月21日	1	札幌か	木彫り熊(荒木作、千歳駐屯陸軍司令だったRobert J Martin大佐がもらったもの)
4	九州	平成30年8月24日	9	八雲等	木彫り熊等9点
5	羅臼町	平成30年8月31日	2	不明	剥製(高麗雉、鷹)
6	愛知県	平成30年11月21日	4	不明	木彫り熊4点
7	神奈川県	平成30年11月30日	1	不明	木彫り熊1点(札幌の荒木か)

合計7件(八雲町内から2件、道内から1件、道外から4件)から寄贈があった。
 合計18点と一括1件(内、木彫り熊15点)の資料の寄贈があった。

○寄託

No	寄託者	住所	年月日	点数	産地・資料名・年代・作者等		備考
1	八雲産業	八雲町	平成30年8月21日	19	八雲等	義親侯収集民芸品(アイヌ民具等)	木彫り熊は、既に借用している義親侯収集民芸品のリストに載せる。アイヌ民具は、別リストで管理する。
2	八雲産業	東京	平成30年8月25日	32	八雲等	義親侯収集民芸品(木彫り熊、アイヌ民具等)	

その他

1. 野田生1遺跡出土の赤彩注口土器の展示

平成22年に野田生1遺跡の発掘調査で出土した赤彩注口土器は、東京国立博物館で開催された「縄文-1万年の美の鼓動」展とパリ日本文化会館で開催された「縄文-日本における美の誕生」展に展示されました。

◎「縄文-1万年の美の鼓動」展

展示会場： 東京国立博物館

展示期間： 平成30年7月3日(火)～9月2日(日)

主な展示品： 国宝6件、重要文化財33件を含む全207件。

入館者数： 35万人

◎「縄文-日本における美の誕生」展

展示会場： パリ日本文化会館

展示期間： 10月17日(水)～12月8日(土)

主な展示品： 国宝6件、重要文化財33件を含む全64件。

入館者数： 14,806名